



＜小学部・中学部の教育＞

学部主任 笹川 健太郎

今年度の小学部は、新1年生18名を迎え、総勢115名となりました。中学部は3月に12名の卒業生がこの学び舎を巣立っていきましたが、今年度新たに20名の1年生を迎え、51名でスタートします。小学部・中学部の教職員が一丸となり、力を合わせて小中9年間の学びの連続性を見据えながら、学部を越えて日々支援・指導してまいります。

小学部の6年間では、「自分できることを増やす」ということを基盤に目標として掲げ、中学部3年間の「仲間と協力する力を育む」目標につなげていきます。

この2つの目標を達成するために、小学部1・2年生は1日でもはやく学校生活に慣れさせることが大切です。初めての学校生活、初めてのクラス替えで子どもたちには少し不安があるかもしれませんが、先生や友達がいるという安心できる環境のなかで少しずつ学校生活に慣れさせながら、日常生活動作や学習姿勢などの基礎・基本の定着に努めていきます。

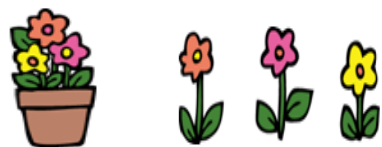
小学部3・4年生では、1・2年生で定着した力を発揮することのできる授業が増えていきます。それによって、「できること」も増えていきます。これまでの学級や学年内中心の活動から、他学年や他校に目を向けた活動も多くなり、4年生になると済美小学校との交流を行います。低学年で培ってきた興味・関心の幅を広げ、より実践的な経験を積み重ねていきます。

小学部5・6年生になると、「自立」に向けた取組が始まります。宿泊行事等を通して、「自分できる力」を高めるのはもちろんのこと、中学部進学に向け、「他者を受け入れながら共に生活していく力」を養っていきます。様々な学習場面で一人ひとりの個性に応じた役割が与えられ、その役割を責任をもって果たす経験を重ねることで、中学部進学への自信が深まっていきます。

中学部1年生は新たな友達や先生を迎え、新しい集団生活が再びスタートします。まずはその新しい環境に慣れさせることを第一に考えたうえで、作業学習など小学部にはなかった新しい学習活動にも主体的に楽しく取り組めるよう指導してまいります。

中学部2・3年生では将来の生活に向けた、より実践的な「はたらく力」の向上が求められます。普段の授業に加え、宿泊行事や地域のスポーツ大会等の行事を通して、「一人ひとりの良さを伸ばしながら友達と協力しあう」態度を養い、高校生活へのステップアップを目指します。

最後になりましたが、昨年度の卒業式の前日の連絡帳に、このような言葉が記されていました。「済美養護学校で良かった」。保護者の皆様がお子様の成長を感じ、楽しく学校に向かう姿をたくさんお見せすることも大きな目標の一つです。本校に通う全ての子どもが充実した学校生活を送れるよう、教職員一同努めてまいりますので、これからも引き続きよろしくお願いいたします。



「お互いを認め合うこと」

校長 伴 比佐志

令和5年度が始まりました。昨年度から引き続いて、杉並区立済美養護学校長を拝命いたしました、伴 比佐志（ばん ひさし）と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

「杉並区教育ビジョン2022推進計画」では、基本的な考え方として、人としての尊厳を尊重するとともに、多様性と社会的共生を基本に据える方向性を掲げています。また、杉並区特別支援教育推進計画では、インクルーシブ教育システムの推進と構築が謳われています。

障害がある・ない、性的指向や性自認、さまざまな国籍の人々が暮らしている中で、「お互いを知り、お互いを理解し、お互いを認め合う」ことが、多様性と社会的共生を考える上で、私は最も大切にすべきこと、と考えています。

そこで、今年度から、本校の学校教育目標を、

「輝く子ども ー自他を認め、社会の中で生きる力と生きる喜びを育むー」

としました。本校の教職員はもちろん、児童・生徒と保護者の皆様、地域の人々が皆、「自他を認める」を合言葉に、人権感覚や人権意識を高めることで、将来、児童・生徒が、主体性を持ち、豊かな地域生活・社会生活を送ることができるようにするための「生きる力と生きる喜び」を、よりいっそう育てゆける、と考えたからです。

私は、「前へ！」という言葉座右の銘としています。「目標に向かう時、逃げたりかわしたりせず、躊躇しないで前を向く。失敗を恐れず、最後まで絶対にあきらめずに前を向く。そうすれば、自ずと道は開け、目標を必ず達成できる。」という意味が込められている言葉です。

教職員一同、新しい学校教育目標の達成のために一丸となり、「前へ！」進む所存です。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

「 はじまりの ものがたり 」

副校長 坪池 学

令和5年4月6日。子どもたちが学校に戻ってきました。待ちに待った瞬間です。「おはようございます。」「久しぶりだね。」「今日から学校だね。」など、想いを言葉や表情で示す子どもたちを眺め、再確認した想いがあります。学校の主人公は子どもたちであり、私たち教職員は、子どもたちがいるからこそ先生でいられるということです。そして、私は、済美養護学校で学ぶ子どもたちと保護者の方々のおかげで済美養護学校の一員にさせていただいたのだと感じるのです。ですから、湧き出る言葉は「学校に来てくれて、どうもありがとう。」です。

昨年度末、長きにわたり本校を愛し、本校の教育活動に貢献してくれた教職員の多くが異動を迎えました。寂しい気持ちがありました。ですが、それ以上に、新しく転任された職員が希望と未来と期待を連れてきてくれました。これまで積み重ねてきた歴史と伝統を受け止めます。そして、今年度の教職員と保護者の皆様、地域の皆様全てで、済美養護学校の45年目の歴史を紡いでまいります。令和5年4月6日。私たちの進化と成長の物語の始まりです。御期待ください。